

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月16日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530162

研究課題名（和文）中国の対中東外交と「真珠の数珠」戦略が日米に及ぼす影響

研究課題名（英文）China's Diplomacy towards the Middle East and Influence which "the String of Pearls Strategy" wields on Japan and the United States.

研究代表者

三船 恵美（MIFUNE EMI）

駒澤大学・法学部・教授

研究者番号：40312110

研究成果の概要（和文）：

本研究課題は、中国の重要なエネルギー供給地域である中東・アフリカにかけての中国の膨張について研究した。中国南部からマラッカ海峡、インド洋、湾岸にかけての外交的・軍事的影響力の拡大を「真珠の首飾り」と呼ぶ。この中国による「真珠の首飾り」戦略が、近年、アメリカや日本の安全保障にどのような影響を及ぼしてきているのかを明らかにした。また、同地域における日本、インド、アメリカ、中国のそれぞれの戦略や関係を分析した。

研究成果の概要（英文）：

This research project examined Chinese expansion along the sea lines that connect China to vital energy resources in the Middle East and Africa. The "String of Pearls" describes China's rising geopolitical influence through efforts to develop special diplomatic and military relationships that extend from the South China Sea through the Strait of Malacca, across the Indian Ocean, and on to the Arabian Gulf. The purpose of this research project was to analyze the Chinese "String of Pearls" from within the context of the global security environment for Japan and the USA. I also analyzed the region strategies of Japan, India, the US and China and examined their circumstances and actions through their national diplomacy, militaries and economies by drawing the individual national analysis to compare and contrast.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：国際関係論

キーワード：中国、米中関係、中印関係、真珠の数珠戦略、中国の対中東外交

1. 研究開始当初の背景

本研究の最終的な目的は、

(1) 「真珠の数珠」戦略のもと、中国が南アジアから東アジアにかけての外交政策を如何に展開し、如何なる関係を構築してきたのかを分析すること、

(2) それらの国・地域に対する中国の外交・軍事政策を比較研究し、如何なる共通点と相違点があるのかを分析すること、

(3) 「真珠の数珠」戦略が日本やアメリカに影響を及ぼしてきた・及ぼすのであれば、それが如何なるものかを分析すること

であった。

中国の「真珠の数珠」戦略についての研究は、アメリカとインドで専ら行われている。また、日本において、中国と東南アジア・南アジアとの関係についての研究は、専ら、東南アジア・南アジアの専門家によるものである。日本では、中国外交の専門家による「真珠の数珠」戦略の研究は、ほとんどなされていない。「真珠の数珠」戦略が及ぼす影響の対象は、アメリカやインドに対するものばかりである。「真珠の数珠」戦略が日本に及ぼす影響の研究は、本研究が先駆的な研究となる。

応募者がこの申請テーマの着想に至ったのは、応募者のこれまでの研究が、中国のエネルギー外交戦略・安全保障戦略を、中東、北アフリカ、中央アジアといった特定の地域の枠組のなかで捉え、それらを包括した中国の国家戦略の研究を充分に行うに至らなかったことへの反省からである。インド洋、ベンガル湾、アラブ海での中国プレゼンスの増大は、個々の地域や国に対する政策の枠組みからだけ捉えられるべきものではない。「富強大国化する中国」の外交政策・戦略を考える場合に、地域外交政策ではなく、東南・南・中央・西にかけての帯状のアジアに対する中国の外交政策を、包括的な国際関係の視角から研究することが、極めて重要である。

申請者は、平成 16 年から 17 年にかけて、科 研 基 盤 (C) 「《中国の対中東戦略》が米中関係に及ぼす影響」において、中国の対中東関係とエネルギー政策について研究した。平成 19 年から 21 年にかけて、科 研 基 盤 (B) 「中国と周辺の多国間戦略」において、各地域から視た中国の台頭について、共同研究から学んできた。その次のステップとして、今回の申請計画において、中国の対外政策を個々の国・地域に対する政策・関係に留まらず、一連の戦略として包括的に分析し、「真

珠の数珠」戦略が日本やアメリカに及ぼす影響について研究する必要性を感じた。本研究計画は以上のような学術的関心から、中国の、東南アジアから南アジア・中央アジア・西アジアにかけての関係構造と戦略に関する体系的な分析を計画した。

2. 研究の目的

本申請研究の目的は、平成 22～24 年の 3 年間で、

(1) 中国が現在展開している中東から中国南部に至るシーレーン沿いに展開している一連の外交・軍事的措置、いわゆる「真珠の数珠」戦略について、該当諸国との関係構造と政策を体系的に分析すること、

(2) これらの国に対する中国の外交・軍事政策を比較研究し、如何なる共通点と相違点があるのかを分析すること、

(3) 中国の「真珠の数珠」政策が日本とアメリカに及ぼす影響を研究すること

であった。

平成 22～23 年度に、中国が「真珠の数珠」戦略を如何に展開してきたのかを分析し、最終年の平成 24 年度に、各該当国への政策を比較研究し、それらが日本とアメリカに及ぼす影響の考察を最終的な研究目的とした。

本申請研究は、

(1) 中国がパキスタン、スリランカ、バングラディッシュ、ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムに対して、安全保障、貿易、金融、エネルギー、港湾を始めとするインフラ整備、軍事交流・武器移転などの各分野において、どのように関係を深化・発展させてきたのか、

(2) (1) について、中国政府（の高官）や中国共産党（の幹部）、また政府や中国共産党の政策決定に影響を与えている大学やシンクタンクの識者達が、如何にそれをとらえているのか、論じているのか、について、資料収集を行い、それらへの分析により、

(a) 「真珠の数珠」戦略の発展経緯、

(b) 「真珠の数珠」戦略を中国の党・政府・学者が如何にとらえてきたのか、いるのか、

(c) 「真珠の数珠」戦略をアメリカと日本の軍・学者・議会がそれぞれ如何にとらえてきたのか、

について、整理・分析を行う計画を立てた。

最終論文をまとめる際には、以下次の 2 点についても分析することを目的とした。

(d) 中国の「真珠の数珠」戦略は日米の対中国政策に如何なるインパクトを与えているのか、

(e) (a)～(d)の結果、日本外交に如何なる影響が及ぼされるのか、

(f) 中国の「真珠の数珠」戦略は、国際政治のなかで如何に位置づけられるのか。

以上の点を分析することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) インド、中国、アメリカなどの諸外国の研究者との学術的交流：インドや日本における国際シンポジウムへの参加、ミニ国際研究会などへの参加によって、机上の空論に終わらない、また日本的な見方に陥らない視角から、中国南方から南アジア、中央アジア、西アジアに、中東・アフリカにおける中国外交の台頭について論争を行った。

(2) 英書での共著書出版：日本語論文のみならず、英書（共著）で研究成果を公表し、インドや中国からのコメントをもとに、研究を精査していった。

(3) 研究者以外のジャーナリスト、外交官などとの研究交流：大学所属の研究者のみならず、外交官やジャーナリストとの意見交換、研究報告とそれへの討論を定期的に行った。

(4) 中東研究者や南アジア研究者との研究会：中国研究者のみならず、中東・アフリカの研究者、南アジアの研究者、東南アジアの研究者、アメリカの研究者、国際政治や安全保障の理論の研究者などとの研究会で報告を重ねることで、中国的な視角に陥らないように、包括的な国際関係からアプローチした。

4. 研究成果

(1) 主な成果と得られた成果の国内外における発信

本研究成果の具体的な成果は、以下の「5. 主な発表論文等」で示した学術雑誌、学術図書、学会での研究報告以外に、2011～2012年には、時事通信社のJANET、2013年には朝日新聞のAJWに掲載された評論においても公表した。また、インドのネルー大学大学院における日印の国際シンポジウムや、国際文化会館における日米中の国際シンポジウムなどにおいても公表した。その成果は英語論文で執筆し、インドで刊行されたため、日本人の中国外

交研究者による日中印関係の分析を発信することに成功できたと考える。また、2013年度に刊行予定の英書は、日本の猪口孝教授とアメリカのJohn Ikenberry教授の共編著であることから、その共著のch.9に本研究成果を掲載してもらえたことで、国際的に発信できたと考える。

(2) 今後の展望

① 3年間の研究のメインが南アジアと中東を中心にした地域であったため、今後はヴェトナムとインドネシア、そしてロシアとの関係についての研究を深め、中国外交の分析を進めていく必要がある。この点を敷衍させていく。

特に、昨年2012年後半以降のインドとロシアの対中国戦略のスタンスを考えると、BRICSにおける中国と中東の方向性の違いと警戒を検討していく必要がある。この点を敷衍させていく。

② 胡錦濤の完全引退と習近平体制のスタートによる中国外交によって、習近平時代の中国外交は胡錦濤時代の中国外交よりも強硬になることが予想できる。また、2017年以降のエネルギー資源の地政学的転換によって、中国の対中東・アフリカ外交は益々重要になってくる。関係強化によって、日本の対中東戦略に及ぼされる影響が益々大きくなりために、日本経済・日本外交への影響は益々大きなものとなっている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

① 三船恵美 「アメリカの『アジア回帰』に新たな戦略を模索する中国」霞山会『東亜』538号、2012年4月号、pp. 28～36。

② 三船恵美 「中国と『アラブの春』」中東調査会『中東研究』第513号(2011年度 Vol.3) 2012年2月20日発行、pp. 35～40。

[学会発表] (計2件)

① 三船恵美 「台頭する中国へのアメリカの政策と中国の朝鮮半島政策—東アジアのパワーシフトと米中関係—(部会3 東アジアのパワーシフトと朝鮮半島)」、日本国際政治学会 2011年度研究大会、於：つくば国際会議場、2011年11月11日。

②三船恵美「中国の対インド政策（共通論題1 インド大国化のインパクト——アジアにおける国際関係の新展開）」、2011年度アジア政経学会東日本大会、2011年5月21日、於・獨協大学。

〔図書〕（計7件）

① Emi MIFUNE, 'Japanese policy toward China', Takashi Inoguchi and G. John Ikenberry (eds.), *The Troubled Triangle: Economic and Security Concerns for the United States, Japan, and China*, London: Palgrave Macmillan, 2013.

②三船恵美「新中国の世界認識と外交」中園和仁編『中国がつくる国際秩序』ミネルヴァ書房、2013年。

③三船恵美「独立自主外交」中園和仁編『中国がつくる国際秩序』ミネルヴァ書房、2013年。

④ Emi MIFUNE, 'Japan-India-US Relations and Rising China', Takenori Horimoto and Lalima Varma (eds.), *India-Japan relations in Emerging Asia*, New Delhi, Manohar, 2013.

⑤三船恵美「中国の周辺外交と対インド関係」『中国外交の世界戦略』明石書店、2011年、pp. 147～173。 2011.03

⑥三船恵美「中国の周辺外交と対イラン関係」『中国外交の世界戦略』明石書店、2011年、pp. 174～191。 2011.03

⑦三船恵美「中国の大国外交と対アメリカ関係」『中国外交の世界戦略』明石書店、2011年、pp. 196～217。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三船 恵美 (MIFUNE EMI)

駒澤大学・法学部・教授

研究者番号：40312110